

広田遺跡



南種子町教育委員会

あいさつ

広田遺跡は、昭和30年の大型台風襲来を契機として発見されました。発掘調査は昭和32年から34年までの3年間実施され、当時最古の文字と言われた山字貝符の発見や夥しい数の精巧な貝製品の発見など他に例を見ない希有な遺跡として全国的に注目を集めました。

それから約50年、同じくして高波による砂丘崩壊を契機に、広田遺跡の保護を目的として再調査を実施しました。発掘調査の結果、広田遺跡の範囲が拡大すること、砂丘北側に新たな墓域が発見されたこと、等大きな成果を得ることが出来ました。

今回、広田遺跡のことをたくさんの人に知っていただきたいと思い、簡単な小冊子としてまとめました。南種子町の貴重な財産である広田遺跡を保護していくためにもますますのご理解とご協力をいただければ幸いです。

平成18年12月

南種子町教育委員会
教育長 竹迫 種俊

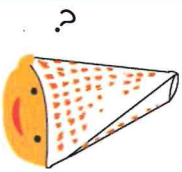


広田遺跡とは？

広田遺跡キャラクターデザイン：安座間奈緒

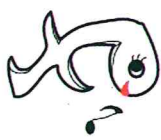
じゃあ、みんなで広田遺跡について見ていきましょう！！

広田遺跡ってどんな遺跡なのかな？

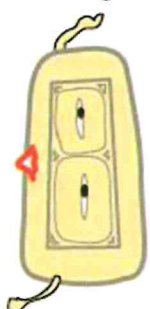


イモガイくん

カイフ先生広田遺跡について教えて！

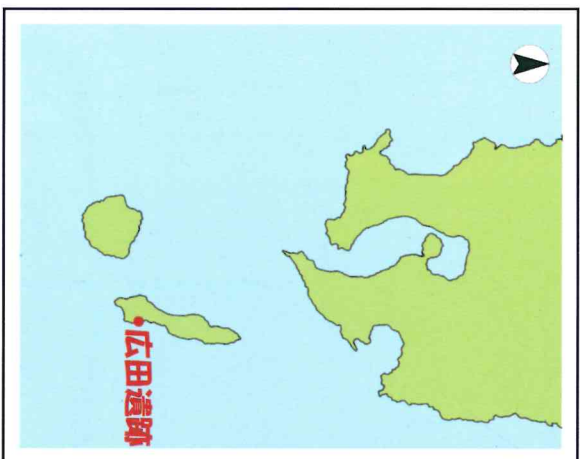


リュウハイちゃん

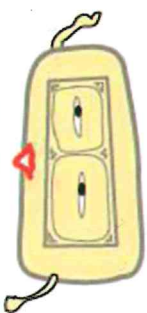


カイフ先生

広田遺跡は鹿児島県の種子島、南種子町にある遺跡です。遺跡は東海岸側の海に面する砂丘に立地しています。弥生時代後期から古墳時代にかけての集団埋葬まいそう墓地の遺跡で、昭和30年代の発掘調査では157体の埋葬された人骨と副葬品を中心として44,000点の貝製品等が発見されました。広田遺跡から出土する貝製品は非常に精巧で、当時の人々の製作技術の高さをうかがわせます。広田遺跡のようにたくさん、また精巧な貝製品が出土する遺跡は他に例がなく、非常に貴重な遺跡といえます。広田遺跡で使われている貝製品の原料となる貝は、種子島よりもっと南の島々から入手していたと考えられています。



広田遺跡の位置



広田遺跡は、南島地域の墓制ほむらいと南島から本土にかけての交易を考える上で非常に重要な遺跡なの。出土した貝製品等は国の重要な文化財に指定されているのよ

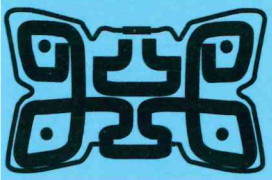
広田遺跡出土品
平成18年6月9日 国の重要文化財に指定



当時の広田遺跡

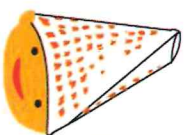
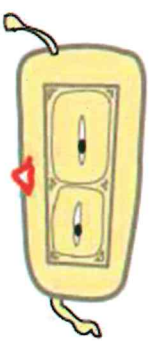
昭和30年代 発掘調査時の広田海岸

(写真提供：鹿児島県歴史資料センター 黎明館)



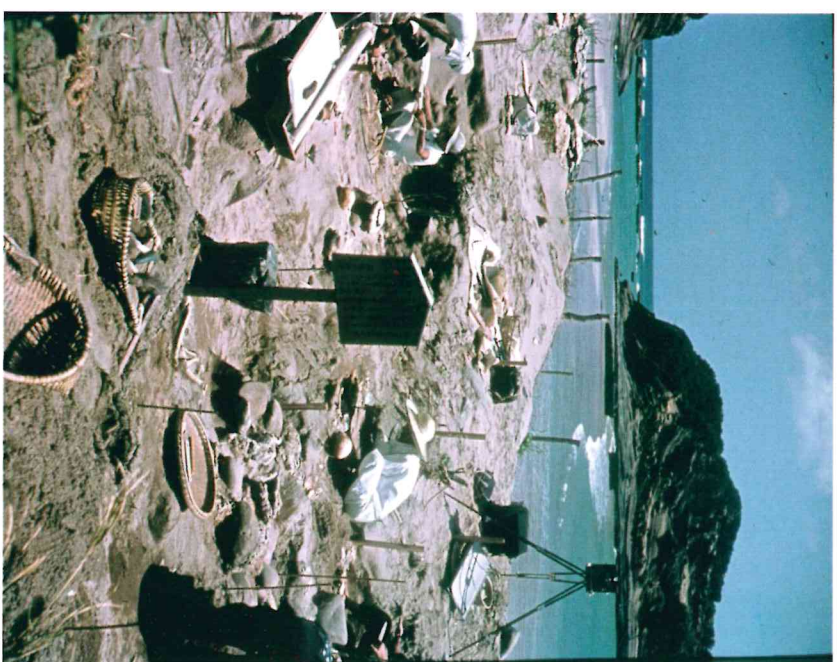
どうして見つかったの？

昭和30年、種子島を非常に大型の台風が襲いました。台風が去ったあと、地元の人が海の様子を見に行くと、台風により砂丘が崩れ、砂浜に骨や土器がちらばっていました。そこで、当時中種子町立野間中学校の先生であった盛園尚孝先生に見ていただきました。これが、広田遺跡発掘調査の始まりです。発掘調査は国分直一先生、金関丈夫先生、盛園尚孝先生らを中心として昭和32年から34年までの3年間行われました。調査してみると、たくさんの埋葬人骨と共に独創的な貝製品がたくさん発見され、発掘調査は全国の注目を集めました。



当時の発掘はこんな感じだったんだね

それでは広田遺跡の世界に案内しましょう！



(写真提供：鹿児島県歴史資料センター 黎明館)

★ひとくち知

広田遺跡は弥生時代後期から古墳時代にかけての遺跡です。弥生時代の終わり頃、日本では卑弥呼のように有力な人々が現れ始め、古墳時代になるとこうした有力な人々が権威の象徴に、お墓として古墳を作るようになりました。

この時代の種子島はどんな様子だったのかな？

3世紀頃

7世紀頃

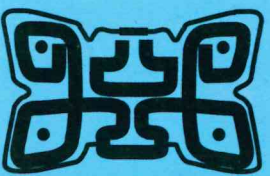
縄文時代

弥生時代

古墳時代

現代

広田遺跡



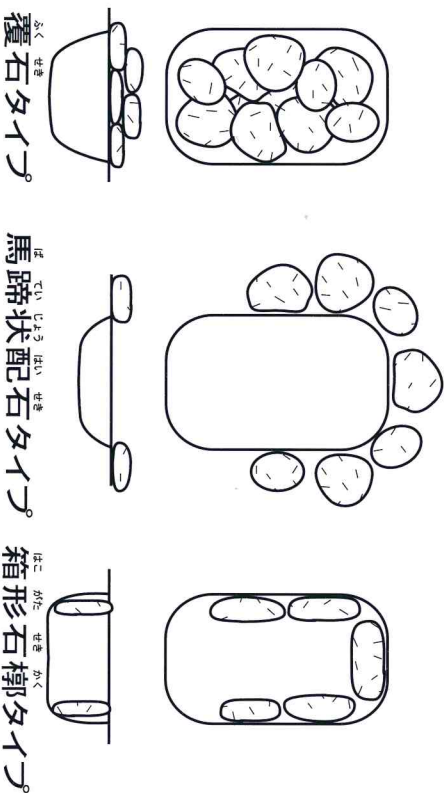
広田人のお墓について

広田遺跡では約400年間お墓が作られました。古い時代(下層埋葬)と新しい時代(上層埋葬)では埋葬方法が違います。それぞれの埋葬形態を見てみましょう。

下層埋葬



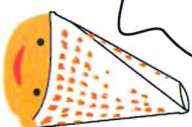
この時期は一つの墓に一人ずつ埋葬されました。足を曲げた屈葬で、非常にたくさん貝の装飾品を身に付けていました。サングを周りに置いたり掘った墓穴の上に配置したり、いろいろタイプがあります。



上層埋葬



石やサングで囲いを作り、中に複数の人骨を合葬・集骨しています。石囲いの中に並べて配置しているものや、古い段階の腐敗した人骨を貝製品と一緒に一箇所に集めるといった埋葬形態が見られます。



中には焼かれた骨もあったんだよ

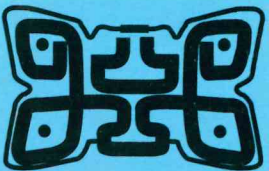
★おとこちゃん

骨から迫る広田人の素顔！

広田人は後頭部が平らで、上から見るとおむすびのような頭の形をしています。



平均身長は成人男性154cm, 成人女性142.8cmと、とても小柄な人たちでした。また抜歯という、歯の一部を抜く風習も見られます。



広田遺跡の貝製品

広田遺跡の出土品は、国の重要文化財に指定されています。ここでステキな貝のアクセサリーの一部を紹介します！



貝小玉・ツノガイのネックレス

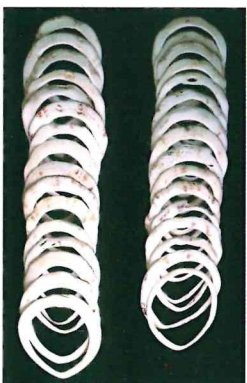
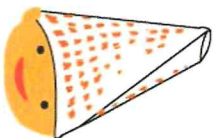


貝の腕輪
コホウラ製(上)
オオツタノハ製(下)



この広田人はネックレスをしていたんだね

広田人の中にはこんなにくさんの腕輪をつけていた人もいたんだよ!

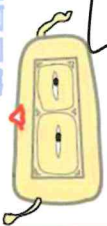


山字貝符(左)
「山」の字に見えるよね

竜佩型貝製品(右)
竜のような形からその名がついた。広田遺跡で見つかったいなんだ



貝符は時代によって形が変わっていくのよ



下層貝符
古墳時代後期～古墳時代前期



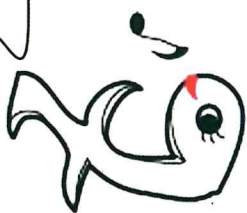
中層貝符
古墳時代中期



上層貝符
古墳時代後期



貝製品に使われた貝の多くは、種子島よりもっと南の島々から交易などで手に入れていたと考えられているの



オニニシ製腕輪
とてもきれいな文様が彫刻されているよ

ヤコウガイ製貝匙

広田遺跡の新たな可能性

平成17年3月、大雨により広田砂丘の北側が崩れ、貝の腕輪をした人骨が発見されました。そこで、南種子町教育委員会は平成17・18年の2年間発掘調査を行いました。調査の結果、昭和30年代調査地区(南区)では墓域がさらに西側に広がること、北区では新しい墓域があることが分かりました。

こうしたことから、広田の砂丘にはまだまだたくさんのお墓が眠っている可能性があることが分かりました。



北区1号墓(成人男性)
右手にオオツタノハ製貝輪
左腕にヤコウガイ貝匙



北区3号墓(小児女子)
ツノガイやソジガイの貝製品
が見られた



北区2号墓
サソゴ石の上に土器が4個
あった。お供え用と思われる



北区のお墓はいずれも弥生時代の終わり頃と考えられます。また、弥生時代中期前半と思われる層からは動物や魚の骨、貝殻などがたくさん出てきました。おそらく当時のゴミ捨て場だったのでしよう。

広田人は、北の本土の文化と南の島々の文化とを取り入れ、独特の豊かな文化を持つていた人々だと考えられているのだけど、どこに住んでいたのかまだ分かっていないの

広田遺跡はすぐ目の前が海岸になっていて、高波の影響を受けやすいの。そのため、広田遺跡は無くならないように危険性があります。だから、遺跡が壊されないよう大事に保護していただくことが急務だと言えるでしょう。

うーん、広田遺跡って不思議な遺跡なんだね

大切な遺跡だからきちんと守っていかねばならないのね!



～過去から未来へ～



広田遺跡

平成18年12月 発行

編集・発行

南種子町教育委員会

印刷

〒891-3792 鹿児島県熊毛郡南種子町中之上2793-1
(有) 種子島新生社印刷